

姫路市ふるさと百年の森構想の概要

第1章 背景

価値観の変化

- 地球環境問題と森林への関心の高まり
- ・持続可能な社会の実現
- ・森林に対するニーズの多様化

林業・森林・山村の変化

- 林業の状況
 - ・国民経済に占める位置の低下
 - ・木材価格と木材自給率の低迷
 - ・林業就業者の減少・高齢化
- 森林の状況
 - ・燃料革命と拡大造林
 - ・管理不十分な森林の増加
- 山村の状況
 - ・高齢化、過疎化

施策の動き

- 平成の市町村大合併
- 森林法の改正
 - ・市町村の役割と市町村への期待
- 森林林業基本法の改正
 - ・環境と林業の両立
- 森林・林業再生プランの策定
 - ・切捨間伐から搬出間伐へ

第2章 現状及び特徴と可能性

○森林について

- ・豊富な森林資源の存在
- ・植生遷移の進行、生物多様性の低下
- ・境界の分からない森林の存在

○林業について

- ・林道・作業道の整備の遅れ
- ・切捨間伐中心で素材生産及び間伐材の利用が低調
- ・林業の機械化の遅れ

○担い手について

- ・森林整備の中核的担い手は森林組合のみ
- ・その他：素材生産業者、生産森林組合、姫路市有林、財産区、林家、ボランティア、木材市場、兵庫木材センター

- うち特徴的な取組み等
 - ・雪彦峰山県立自然公園の存在
 - ・藤ノ木山、牧野自然公園等里山林の整備・保全の実施
 - ・緑の募金による里山林の維持管理の実施

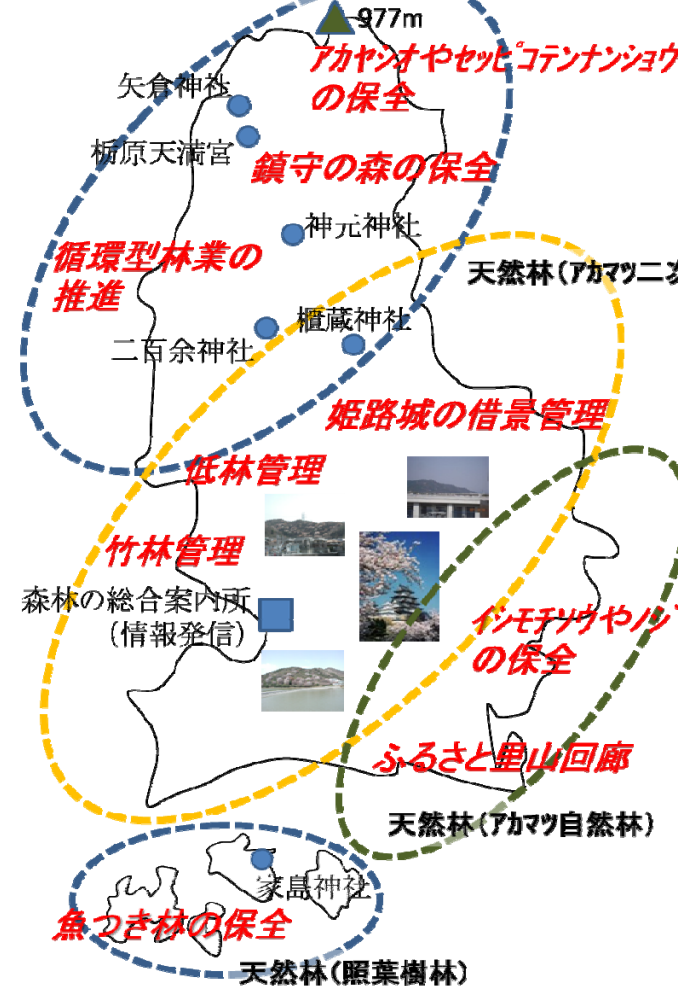


☆特徴・可能性

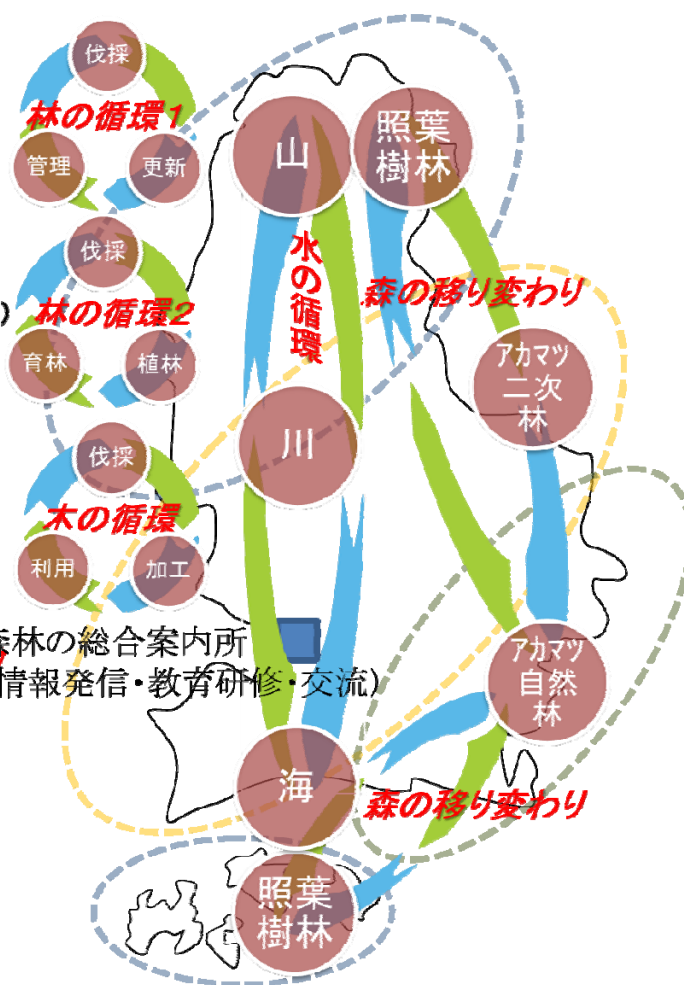
- 特徴的な市域と可能性
 - ・地勢的には森林、農地、平野、海及び島、地域的には都市部から農山漁村部まで様々な地域の存在
 - ・平野部に憩いの場としての独立丘陵の存在：八丈岩山、蛤山（袖振山）、檀特山
 - ・川の源流の森林を保全＝川の保全
 - ・中国道を境に北は南北交通のみ、南は東西南北の交通網の発達
 - ・地域の交流及び北部地域森林の活用・保全のための交流林道、集落間林道の検討
 - ・市民全体で森林を保全していく必要性の存在
- 多様な担い手の可能性
 - ・臨海部の企業の存在
 - ・市民、企業、行政の連携・協働の重要性の認識

1stステージ：地域の特色を生かす

人工林・天然林(夏緑樹林・照葉樹林)



2ndステージ：地域をつなぎ、循環させる



八丈岩山の山桜



雪彦山



第3章 将来像

基本理念 森林の有する多面的機能の発揮と農山村の持続的かつ健全な発展との調和

基本方針 (姫路市農林水産振興ビジョンの基本理念) 環境と共生し、姫路市民の生命(いのち)と暮らしを支え、あたたかくふれあえる元気な農林水産業の実現

基本方向 市民感覚による地域特性の発揮と交流

※市民感覚とは、生産者と消費者の両方の視点を持つ。

考え方 森の移り変わりと水・林・木それぞれの循環との調和

めざす森林

現在の森林の姿	管理方法	めざす森林		
		将来の森林の姿	具体的な姿	人の関わり方
人工林 (スギ、ヒノキ)	5～10年毎に 間伐	スギ、ヒノキ林 針広混交林	立木間隔4～6m 下層植生が豊富	生業の森 防災の森 共生の森 学びの森
天然林(マツ、 竹、広葉樹)	低林管理 高林管理 自然植生遷移 (照葉樹林)	照葉樹林 ヤマブキ景観保全林 (姫路城借景) アカマツ二次林 アカマツ自然林	生物多様性が豊か(40 ～60種の植物) 希少生物の保護	学びの森 ふれあいの森 (ふるさと里山回廊) 共生の森 (野生動物共生林、魚つき林) 景観の森

めざす森林

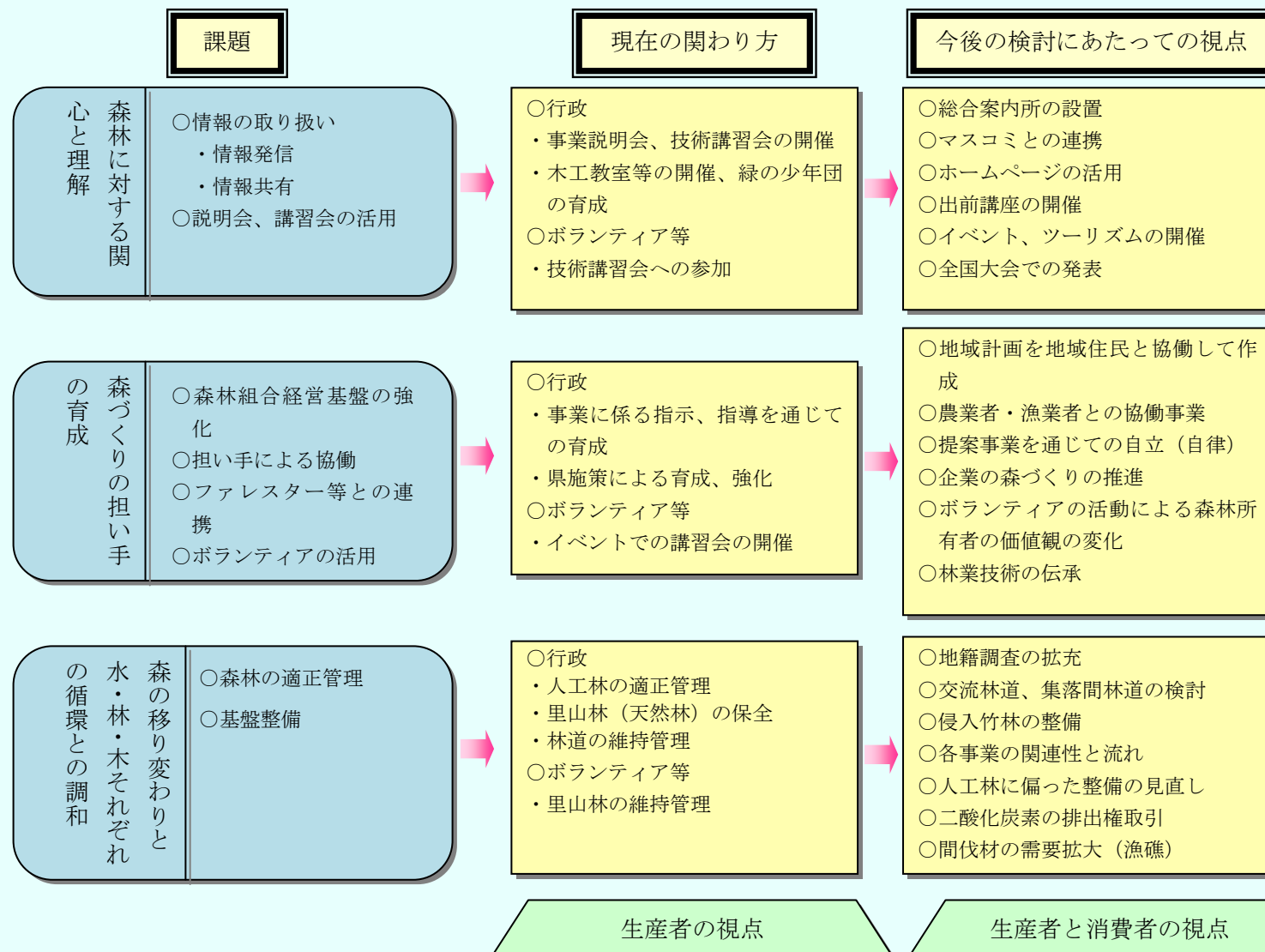
スギ人工林

天然林



第4, 5章 課題と関わり方 (行政: 施策、ボランティア等: 活動)

基本方向: 市民感覚による地域特性の発揮と交流



第6章 推進体制

参画と協働による森づくり

